

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4191200064
法人名	(有)九州メディカル・サービス
事業所名	グループホーム「安心」しらかべ
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字白壁244番地1 (電話) 0942-89-3007

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年4月7日

【情報提供票より】(平成21年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 21 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10 人,	非常勤 7人, 常勤換算 12.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て
------	--------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82 歳	最低	59 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村病院 みねクリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業母体のグループには医療や看護・介護の施設や病院があり、医療支援体制が確立されている。管理者と職員は地域密着型サービスの意義を理解しようと取り組んでいるが中々実践するまでに至っていない。ホームは幹線道路に面しているが少しでも外に出る機会を増やそうと中庭に畑を作る準備が進んでいる。現在有るサクラボの収穫と花を見る楽しみに、野菜の成長と収穫を待つ入居者の楽しみを増やす計画である。学習療法をとり入れて入居者のやる気を引き出す検討がなされ、入居者主体のケアが実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果は職員勉強会で取り上げ、検討課題となったものは検討を重ね具体的な改善に活かしている。改善課題となった玄関の施錠は、センサーを付けて職員の見守り支援体制を充実させることで鍵をかけないケアの実現につなげている。地域密着の取り組みでは、地元の行事である面浮立の訪問を受けられるように働きかけている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組み、地域密着型サービスの確認とケアの振り返りにつなげている。今回の評価結果は利用者家族に送付してホームの取り組みを説明し、運営推進会議でも取り上げてより質の高いサービスにつなげる計画である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は民生委員や入居者家族などで開催され、消防訓練などホームの活動や計画を報告し双方向の意見交換がなされている。ホームの行事と運営推進会議開催を同日にするなど、委員の出席率を高める工夫をしているが定期的な開催までには至っていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「ホーム便り」を発行し、ホームでの様子を知らせている。管理者は家族の面会時に必ず声を掛け話をする事を心掛けており、入居者の日常の暮らしぶりや健康状態を伝えている。重要事項説明書に事業所における苦情受付窓口と行政機関その他苦情受付機関を明記し、家族に説明している。玄関には投函箱も設置され、意見を表せる機会を設けている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域密着型サービスの役割を理解し、地域住民の一員として地元と交流するよう地域に働きかけはしているが未だ実現には至っていない。今後はより積極的に地域交流に取り組む計画である。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域を意識し「地域の人々が気軽に立ち寄れるホーム」、「入居者がいつでも意見を表せ笑顔あふれる生活」、「その人らしい楽しい暮らしを支援する」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務開始時に理念の唱和と確認を行い、理念の共有に努めている。職員は日々の業務を通して、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域密着型サービスの役割を理解し、地域住民の一員として積極的に地域交流に取り組む計画がある。	○	現在の取り組みが実現し、事業所と地域の方々が日常的に関わりを持つような双方向の関係が築かれる事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、地域密着型サービスの確認とケアの振り返りにつなげている。前回の外部評価の結果は職員勉強会で取り上げ、検討課題となったものは検討を重ね具体的な改善に活かしている。改善課題となった玄関の施錠は、センサーを付けて職員の見守り支援体制を充実させている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は民生委員や入居者家族などの参加を得て開催し、消防訓練などホームの活動や計画を報告している。運営推進会議では双方向の意見交換があり、議事録も残されている。ホームの行事と運営推進会議開催を同日にするなど、関係者の出席率を高める工夫をしているが定期的な開催には至っていない。区長や行政職員に委員就任を要請しているが未だ実現していない。	○	地域住民、利用者・家族、行政の職員など幅広い立場の人が参加する会議となることが望まれる。自己評価や外部評価の効果をより高めるために、取り組みや改善経過のモニター役になってもらう事が考えられる。評価と運営推進会議を一体的に活かして行く様な取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや、町の担当職員とは顔見知り程度の関係である。事業母体のグループを通して市からの情報を収集している。	○	町の担当者にホームのホームの実情を理解してもらいお互いの信頼関係を築けるよう、運営推進会議等を通じた連携など一層の協働関係が築かれることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ホーム便り」を発行し、ホームでの様子を知らせている。管理者は家族の面会時に必ず声を掛け話をする事を心掛けており、入居者の日常の暮らしぶりや健康状態を伝えている。面会の少ない家族には電話で連絡をとり、報告している。	○	家族と事業所との信頼関係を築く為にも、家族等が知りたい点を考慮しながらあらゆる接点で積極的な情報提供を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所における苦情受付窓口と、行政機関その他苦情受付機関を明記し、家族に説明している。玄関には投函箱も設置され、意見を表せる機会を設けている。寄せられた意見は職員会議で検討し、運営に反映させる体制ができています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	地域密着型サービス事業所としての特性を考え、職員の異動は最小限に抑える努力をしている。異動がある時は、共に暮らす家族として送り出す会を催すなど、入居者の混乱を防ぐ配慮がなされている。入居者家族にはホーム便りで知らせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業母体グループ内の研修や事業所独自の勉強会など、研修の機会が確保されている。外部の研修会の開催情報は職員に伝えられ、希望すれば参加できる様に配慮されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域のグループホームの会に参加し、情報交換している。事業母体グループの同業6事業所とは定期的に勉強会や交流会を開催し、情報交換を通してサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの見学を通して十分な説明をしたり、入居者と交流してホームの雰囲気を知ってもらうなど、安心して入居できる支援が行われている。希望により体験入居も受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	礼儀作法や社会常識、言葉遣いや方言など職員は入居者から学ぶ事は多く、支え合う関係が築かれている。職員は入居者との会話から不安や喜びを感じることと努め、共に支え合える関係作りに活かしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活を通して入居者と会話することを心掛けており、本人の思いや意向を汲み取るように努めている。会話が少なく意向の把握が困難な場合は本人の様子や態度・表情から察したり、家族の面会時に情報を得る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族、管理者や担当職員、ケアマネ・看護職員などが話し合い、具体的な介護計画が立てられている。職員は日々の暮らしの中で気付いた情報を記録し、入居者本位の思いを反映した介護計画に活かしている。介護計画を毎日評価する取り組みを始めたところである。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月毎の定期見直しと状態の変化があった時はその都度、見直しが行われている。3ヶ月毎の介護計画のモニタリング、毎月の職員会議での確認など、現状に即した介護計画の見直しにつなげている。介護計画の見直し時は家族や入居者本人と十分な話し合いが持たれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制ができていて、軽い病変でもすぐに連絡をとり受診できるよう支援されている。家族や本人の要望で、買物や通院などの外出支援が柔軟に行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続受診か協力医療機関への変更かは入居者・家族と十分話し合われて決められている。入居者や家族の意向を大切に支援を心掛けており、安心して医療が受けられる体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における指針があり、契約時に本人及び家族に説明が行われ同意書が交わされている。医師とも相談し、入居者や家族の意向を確認しながら取り組んでおり、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム便りや各種印刷物の顔写真などは家族から掲載承諾を得た方のみを掲載するなど、個人情報の取り扱いには慎重に対応している。職員は日頃から理念を念頭に置き、入居者の尊厳を大切に誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉掛けや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは緩やかで入居者の希望を大切にした支援を心掛けている。起床や就寝時間、食事に要する時間や場所などその人のリズムに合わせた支援がなされている。面会時間も決ってはいるがそれにとらわれることなくいつでも希望に添って対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配食を利用しているが、食事の下ごしらえや後片付けなど入居者ができる事は職員が見守りながら支援している。宅配メニュー以外でも要望があれば入居者と買物に行き好みの献立にしたり、行事食の時はバイキング形式にするなど、食事が楽しみになる様支援している。多くの入居者が食事エプロンを使用し、職員は持参の弁当を食べている。	○	入居者と職員が同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べることは、家族で生活する基となると考えられる。同じ食事を一緒に摂れる様な食事のあり方についての検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望される入居者には毎日の入浴が可能である。好みの入浴剤を使用したり入浴時間の長さなどは本人の希望を大切に、ゆっくり入浴を楽しめる支援がなされている。入浴を拒まれる入居者には無理強いせず、時間や順番をかえたり職員の声掛けで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえや皿拭き・茶碗洗い、洗濯物たたみ、小鳥の世話、車イスを押すお世話など生活歴を活かした役割や楽しみごとがあり、入居者主体の支援がなされている。散歩や買物、花見、毎月計画される行事など楽しい気晴らしの支援もされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩など入居者の希望に応じた支援に努めている。庭に面したウッドデッキを活用して花見やお茶会などの戸外活動も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで日中は施錠されていない。ホームは幹線道路に面しており、安全の為に玄関自動ドアの電源は切っており、手動での開閉は軽く、可能である。玄関にはセンサーが付いており、人の出入りが気付きやすい工夫がなされている。職員は常に入居者の状況を把握するよう心掛け、見守りながら支援して		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの消防避難訓練を年2回実施している。防火水槽点検や消火器の使用訓練も同時に行っている。避難訓練は地域住民にも通知されるが、地域の方々の参加はなされていない。	○	職員だけでの誘導の限界を具体的に確認し、地域住民や消防団の協力を得ての避難訓練の実施も期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は主食と副食に分け毎食毎に記録し、一人ひとりに合った食事支援につなげている。水分摂取量は入居者毎に水分摂取計画をたて、毎時間ごとに記録されている。食材宅配会社の栄養成分表等栄養バランスの把握はできており、主治医の指導でその人に合った支援につなげている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝窓を開け放ち換気を心掛けている。共用の空間にはソファや椅子が多数置かれ、入居者は思い思いの場所で寛ぐ事ができている。居間には畳敷きの一角があり、寛ぎの場や洗濯物たたみの作業などに利用されている。季節の花や手芸作品・人形が飾られて季節感を感じる雰囲気作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたもの等、希望の品の持込みが可能である。机やダンス、ソファ、テレビ、鏡台、畳などを持参している入居者もある。また、写真や手芸品、カレンダー、人形なども飾られ、その人らしい居室作りが支援されている。		